

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570300618		
法人名	営利法人 有限会社 つだ福祉サービス		
事業所名	グループホーム 四季の音	ユニット名	1階
所在地	延岡市別府町3088-1		
自己評価作成日	令和2年7月5日	評価結果市町村受理日	令和2年10月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_pref_search_list_list=true

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	令和2年9月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「尊厳ある威厳」という法人の理念を基に「グループホーム四季の音」でも事業所の理念を1、2階共通で二つ掲げ、その理念に向けて援助を行っている。職員は、事業所内で毎月行われる研修会に参加し、また、外部で行われる研修会にも意欲的に参加し、認知症のケアを深め実践している。また、地域の中の事業所として地域の方々の交流も行っている。地域の行事、奉仕作業、避難訓練等にも参加している。(今年は、コロナウイルス感染予防の為に自粛している)利用者への援助は、今までの生活が継続できるように一人ひとりに合わせた援助を行う事を目標とし、「その人らしさ」を引き出し寄り添う援助を行っている。また、利用者一人ひとりが表情豊かで穏やかに過ごす事を目標として援助している。また、自然とのふれあいを兼ねて、敷地内の畑に季節の野菜等を栽培し収穫、食材に生かしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

複数の地域密着型サービスを運営する法人では、より良いサービスを提供するために、研修や資格取得を支援し、人材育成に取り組んでいる。商業施設が並ぶ立地を活用して、毎日、食材の買物や散歩に出かけ、利用者の楽しみになるよう外出支援に努めている。また、ユニット間でレクリエーションを行うなど、利用者の交流を支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

1ユニット目記入欄

評価機関記入欄

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	1階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	以前は、各階別々の理念であったが、昨年の秋に理念の再構築を行い、現在は、各階共通の理念を二つ掲げてその理念を基に毎日一つ選びその理念を達成する事が出来るように援助を行っている。夕方のミーティングで実践の内容を振り返っている。		目指すケアの指針を、分かりやすい文言で理念として掲げ、毎朝の確認と夕方の振り返りで、その理念を共有し達成するよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行われる防災訓練、夏祭り、清掃活動等に出来る限り参加している。また、ほぼ毎日のように近所のスーパーに買い物に行き、スーパーの店員さんや来店されている近隣の方と挨拶をし、交流を交わしている。		予定表を作成し、それに沿って利用者が季節ごとの地域の活動へ参加したり、日常的に散歩や買い物などに出かけるなど、地域の人との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で、毎回、認知症の方をどのように理解し、実践しているか報告している。毎日のスーパーへの買い物や散歩している利用者の姿を地域の方が目にする事で利用者の暮らしぶりを見る事ができている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で、事故報告、ヒヤリハット報告等について報告し、報告の内容については、必ず意見をいただき相談している。その結果は、事業所内で回覧し、実践に活かすようにしている。		運営推進会議で出た意見を、色分けし誰からどのような意見が出て、どう解決に結びつけるのかなど、分かりやすい会議録を作成している。また全職員で共有し、実践するよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にも必ず参加していただいている。利用者や利用者の家族等の相談、苦情など事業所にとどまる事のないように、市役所に報告、相談している。		運営推進会議後、会議録を配布するなど担当職員と連携を図りやすいようにしている。また、市担当者も、ホームからの相談に対して、県や他市から情報を収集しアドバイスするなど、協力関係の構築に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内の研修にも必ず取り上げて、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、各団体等で開催される研修等にも出来るだけ参加し、実践に取り組んでいる。玄関の施錠は、事務所が休みの時は、外部からの侵入を防ぐ為に施錠している。		全職員が、研修を受ける体制づくりに努め、ホームだけでなく法人全体で、身体拘束をしないケアに、取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に一度は、社内の研修にも取り上げて研修会を行っている。利用者に対しての言葉使いについては、職員同士お互いに注意するようにしている。各団体等で開催される研修会等にも出来る限り参加している。			

自己	外部	項目	自己評価	1階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、青年後見人制度の申請中の利用者がある。以前、青年後見人制度を利用していた利用者があり、社内研修の中で外部講師を招いて学ぶ機会があり、職員間でも制度について理解を深める事が出来ている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については、事業所の方針等をしっかり説明し、同意を得て納得していただき利用を開始している。また、改定時には、変更した内容の説明を行い同意を得ている。解約時にはお互い納得した上で解約をするようにしている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	市内に家族のいる利用者については、頻りに面会に来られるのでその時に意見等を聞いている。県外に住んでいる方については、電話で日々の様子を伝え、意見等を伺うようにしている。意見等がある時は、速やかに対応が出来るように話し合いの機会を設けている。	利用者や家族も、運営推進会議のメンバーとして毎回参加し、意見や要望を話す機会をつくっている。また、家族の訪問時や電話等では、より多くの意見や要望を言えるよう、雰囲気づくりに配慮するよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、必ずスタッフ会議を行っている。それぞれの職員からの意見を引き出すようにし、働きやすい職場づくりを目指している。	管理者は、職員とコミュニケーションを図り、出た意見や情報をしっかり取り入れるよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務内容、目標や悩みについて、相談しやすい職場づくりを目指している。勤務表作成時には、各自、希望休を聞いている。また、週40時間の勤務体制が出来て。給与水準も決められている。希望有給も叶えている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月開催している事業所全体の研修会にそれぞれが参加し、スキルアップを図っている。また、外部で開催される研修会にも出来る限り参加している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の研修会の時に交流する機会があるので参加している。また、グループホーム協会にも入会しているため、研修会がある時には参加し交流をしている。			

自己	外部	項目	自己評価	1階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族からの要望をしっかり聞き、アセスメントを行う。また、利用者一人ひとりに担当の職員を決めてしっかり連絡をとり、1日でも早く慣れていただき、本人が安心して生活できるように取り組んでいる。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人、家族の要望に耳を傾け、相手の立場に立ち話し合いを行い、関係づくりに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の状況を把握し、何を必要としているか、困っているかを見極め、本人に合ったサービスを職員、管理者、関係者で話し合い、目標を立て援助している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に利用者と一緒にいる事を目指し、買い物、調理、洗濯者たみ等を共にしている。また、施設内の畑にて栽培した野菜等を収穫し、食材として使用している。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	頻りに面会に来る家族もある。県外に住んでいる家族に対しては、電話にて日々の様子を伝えている。その中で家族に要望を聞いたり、協力をお願い出来る事は協力をお願いしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚、家族、知人等の面会がある。来所持には日々の生活の様子を伝えている。利用者の中には、家族と一緒に外出し、外食する方もいる。(現在は、コロナの関係で自粛している)関係性が途絶えないようにしている。	家族や知人等の面会時に、声掛けをするなど気兼ねなく、来所しやすいよう配慮している。地域の祭りなど年間行事予定に入れ、参加できるように関係継続の支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日、利用者が集まり、レクリエーションを職員と一緒にしている。利用者一人ひとりの性格を理解し、お互いに助け合い、譲り合いながら、出来る事を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	1階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時に医療機関に入院中の時など、継続してお見舞いに行き、家族にお会いしたら、「困った事などある時はいつでも相談して下さい」と声掛けしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの暮らし、生活歴を把握し、本人の希望や意向に耳を傾け、出来るだけ希望に沿えるようにしている。		日々のかかわりの中で、言葉や表情などから利用者の意向や希望を把握するようにしている。把握した情報は、全職員が共有しケアに反映するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴や馴染みの暮らし方を本人や家族に聞き、部屋の環境も今までと変わらない生活環境に合わせるようにしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりに合った援助内容を職員間でしっかり話し合い共有し支援を行っている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のスタッフ会議の中で、それぞれの利用者の援助が介護計画に沿って出来ているか確認している。短期目標については、計画作成者が本人、家族、担当職員意の意見を取り入れ、モニタリングを行っている。		日々の暮らしの中から、本人や家族の要望を把握し、計画に盛り込むことで、本人主体の介護計画となるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人ひとりの日々の様子を記録に残している。日々のケアの実践については、朝、夕のミーティングにて報告している。また、職員間でも申し送りを行い、情報の共有をしている。。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者一人ひとりに対して担当の職員がいる。本人や家族に要望等を聞き、また、日々の生活の様子を伝えている。その内容を毎月のモニタリングに繁栄している。			

自己	外部	項目	自己評価	1階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ほぼ毎日、近所のスーパーに買い物に行っている。ホームセンター等にも散歩を兼ねて行く。時には、知り合いの方に会い、挨拶をしたり、立ち話をしている。(現在は、コロナの関係で職員のみで行っている)			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの利用者が往診を利用している。往診時には、現在の状況や暮らしの様子を伝えている。また、かかりつけ医には、担当の看護師がいて色々相談している。	多くの利用者は、嘱託医をかかりつけ医としており月2回の往診を利用している。嘱託医にはホーム担当の看護師が配置され、いつでも迅速な対応ができるよう受診支援に努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医の看護師に相談したり、法人内の看護師に相談し、早目の対応を行うようにしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人の日々の様子を伝えたり、時には、文書等でも伝えている。入院中には、職員が交代でお見舞いに行き、本人と会話し、病棟の看護師に症状を聞いている。退院時には、必ず、カンファレンスに参加し、注意事項など聞いている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化していく中で、本人、家族と話し合いを行ない、事業所で出来る事を伝え、同意を得るようにしている。	看取り方針をもとに、入居時文書にて本人、家族に説明し意向の確認を行っている。また、状況の変化に応じ、随時意思を確認しながら支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回、全職員、普通救命士の講習を受けている。また、事業所内外の研修で急変時、応急処置等の対応についても学んでいる。マニュアルも用意してある。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、事業内で避難訓練、通報訓練を行っている。その内1回は、消防署の方の立ち合いをお願いし、消火器の使用方法等も学んでいる。それぞれの職員は、誘導出来ている。また、地域の方の協力体制も出来ている。	定期的な訓練を重ね災害に備えるとともに、利用者は下肢体操を日課としており、避難に際し、安定した歩行を確保できるよう災害対策に努めている。利用者ごとの食料品備蓄もある。		

自己	外部	項目	自己評価	1階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりに対して優しい言葉遣いで声掛けするように意識している。誇りやプライバシーを損なわないように心掛けている。職員の体調不良等で荒い口調を見かけたら、交代して対応するようにしている。		特に、言葉遣いに関しては、理念に掲げて日々の実践に取り組んだり、マニュアルを作成し指導しているが、ケアの実践ができていたとは言い難い。	人格の尊重や、プライバシーの確保についてのマニュアルを、より細かく具体的に作成し、全職員が利用者の尊厳を守るよう事業所全体で取り組むことに期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりが自分で決定出来るように声かけを行い、自分で決めるように支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりが無理や我慢をする事なく、本人のペースに合わせて生活出来るようにしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時には、洗面所に誘導し、髪をとかし、季節に合った洋服を着るように支援している。また、外出時には、個人のお気に入りの帽子やバック上着を身に着けるように支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつ作り、食材切りに参加してもらっている。お誕生会は、本人の好物を準備し、ケーキも皆さんで作っている。		利用者が、買い物や季節の野菜を栽培、収穫し調理することで食事が楽しみなものになるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人記録に食事量、水分量を記録している。栄養のバランスに気を付けて献立を立てている。また、ミキサー食、キザミ食、とろみ使用して対応している利用者もいる。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者を洗面台まで誘導し、口腔ケアを行っている。介助の必要な利用者に対しては、職員が一部介助を行い、清潔保持に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	1階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的に排泄の誘導を行っている。一人ひとりの排泄パターンを把握している。自分で出来る利用者は、声掛けする事で出来ている。日中と夜間で布パンツ、紙パンツ、尿取りパッドと使い分けしている利用者もいる。		排せつチェック表にてパターンを把握、声掛け誘導を行うことで、日中は布パンツでの排せつができるように排せつの自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維の多い食材を取り入れ、朝食には、必ずフルーツヨーグルトを提供している。また、入浴後には、好みに合わせ、乳酸菌飲料を出している。排便の記録をし、便秘の状況を把握している。また、定期的に薬を服用し調整している利用者もいる。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間は、その日の行事等により、午前と午後に分けている。1日おきに入浴出来るようにしている。一人ひとりゆっくりと入浴出来るように支援をしている。また、体調不良で入浴できない利用者に対しては、清拭にて対応している。		利用者一人ひとりに、その日の意向を確認しながら、ゆっくりと入浴できるよう努めている。また、浴室には、暖房機が設置され冬場の温度差に対応、安全に入浴が楽しめるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンを把握し、昼間静養の必要な方は、静養してもらっている。就寝時間もほぼ決まっているので、毎日同じ時間に就寝している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用している薬の内容を個人ファイルに綴じている。変更時には、申し送りにて職員に伝える。薬は、職員が管理し準備時、服薬時には、職員2名で確認し服用してもらっている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	普段の生活の中で、それぞれに役割がある。洗濯物たたみ、干し方をしている。体操、下肢訓練に参加している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じて市内に見物に外出をしている。日常的には、近所のスーパーに買い物に行く。散歩もしている。外出時には、地域の方と挨拶をかわす交流もある。(現在は、コロナの関係で自粛している)		普段は、近隣にあるスーパーやホームセンターへ頻繁に出かけ、ペットコーナーを散策したり季節の食材を手取るなど、気分転換に繋がるよう外出支援に努めている。また、年間の外出計画では、季節に応じ祭り見学やドライブ等が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	1階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の預かり金は、事務所で預かっている。外出時や買い物時に本人に財布を渡し、買いたい物を本人が選べるように声かけしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方の家族の方からの手紙やハガキは、本人に渡し、内容をよんでいる。また、電話に出て話せる利用者は、職員が側について援助し、電話にて会話している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が歩行するスペースには、不用な物は置かないようにし、安全に歩行出来るように配慮している。季節を感じる事が出来るように、利用者と協力して作成した作品を壁に貼っている。また、季節の花も飾っている。	空調や照明が管理された共用空間は、2ユニット合同で行事開催が可能で、ゆったりとした開放的なスペースになっている。壁に共同制作の作品を掲示するなど、居心地よく過ごせるよう配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う者同士と一緒に座り過ごしている。一人ひとりが自分の座る場所があり、落ち着いた環境の中で生活している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたタンス、椅子、ソファ等を置いている。また、家族の写真等も飾り、居心地よく過ごしている。	ベッドと備え付けのクローゼット以外は、利用者の使い慣れた布団や小物・家族写真が持ち込まれ、過ごしやすいよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人ができる事、好きな事、興味のある事が気兼ねなく出来るように配慮している。			